

“ふるさとちば”のための政策推進を



おおまつ 重 和 大松しげかず県議会サポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

新生・旭市のために県政で全力

畜産農業の振興へ県に提言

旭市特集
6月県議会一般質問



6月県議会一般質問に登壇する大松重和県議(県議会議場)

全国トップクラスの農業生産千葉県で農業産出額が県内ナンバー1の旭市。「さわやかな政治で新生・旭市の夢ある未来を築く」をモットーに活動する大松重和(おおまつ・しげかず)旭市選挙区県議は、東総の中核都市として自立した「旭経済圏」の構築の実現に力を注いでいます。1期目議員ながら着実に力をつけ、政策への提言「論理的な発言」積

極的な行動」が県議会で注目されています。6月県議会では一般質問に登壇しました。「ふるさと旭市のため、市民の声を県政で生かす」という地域優先の姿勢を基本に「畜産農業の振興」へ向けた質問を行ったほか、「東総の医療連携」「銚子連絡道路」「あさひ企業誘致」について県当局を質しました。県議会の質疑応答を1・2面で特集します。

飼料用米は58粒、キロ30円

大松 米の生産調整に対応する新規需要米の栽培拡大について。県は平成20年度について、飼料用米などの新規需要米の作付けを積極的に進めてきたようだが、栽培面積見込みを含めて、現在の進捗状況はどうか。

知事 飼料用米、それから米粉、などの新規需要米が、新たな生産調整の手段として認められたことは湿田の多い本県にとって、大変有意義だと認識しています。飼料用米が58粒。米粉が7粒、合わせて65粒です。

大松 飼料用米の家畜への給餌方法は確立しているのか。今後の研究とするなら、どの程度進んでいるのか。

知事 粉殻を取った玄米は平成19年度までに研究した結果、栄養価でトウモロコシとほぼ同等で、乳牛で最大20%、肉牛で40%、豚、鶏で50%まで、トウモロコシの代替として利用が可能となりました。さらに、本年度は、粉殻を付けたままでの給餌方法について、県独自に、畜産総合研究セン

と畜豚80万頭で目標達成

大松 食肉流通合理化計画について。千葉県食肉流通合理化計画の策定から平成17年度までの計画と実績はどうか。

知事 計画は県内食肉センターの機能強化と再編を促進することを目的として策定。県内10カ所ある食肉センターのうち、1カ所を基幹食肉センターに、3カ所を補完食肉センターに位置づけ、平成17年度に処理すると畜頭数の目標を豚80万頭、牛4万頭と設定したところでは、

実績は平成17年度までに6カ所の食肉センターに再編。と畜頭数は豚79万2千頭で概ね目標を達成することができましたが、牛はBSE牛の影響などにより2万7千頭となりました。

大松しげかず県議 PROFILE

- 昭和33年 旭市鎌数生まれ(9月23日) 市立旭二中、県立銚子商業高校卒業
- 昭和53年 養豚業/旭市農協青年部委員長/旭市立共和小PTA会長/県養豚協合理事/旭青年会議所会員 千葉県議会初当選
- 平成19年

- 自民党県連 総務会委員
- 県議会 健康福祉常任委員会委員
- 千葉県 卸売市場審議会委員
- 旭ロータリークラブ会員/海産農業共済組合 損害評価委員

- 生活信条 初志貫徹
- 趣味 ジョギング、読書(歴史)
- 家族 父母 妻と一男二女の7人家族

県政や地元・旭市のことはお気軽にご相談ください。 〒289-2505 旭市鎌数236
大松しげかず 県議 事務所 TEL0479(64)1428
 FAX0479(63)9300

旭市民の生活視点で要望

「医療」「道路」の充実を

東総の医療連携体制を早期に



6月県議会一般質問。自席で再質問を行う大松重和県議

キンググループを設け、実務的な検討が進められています。大松 今後、県はどのような取り組みでいくつもりなのか。健康福祉部長 東総地域の限りの医療資源が効果的かつ効率的に機能するためには、県として、3市1町

の病院が、それぞれの役割と診療機能などを明確にし、病院相互の医療連携体制を構築していくことが重要である、と認識しています。このため、今年度も引き続き、東総地域医療連携協議会やその専門部会、ワーキンググループにおける検討の中に、県も積極的に参

加し、東総地域の医療連携体制の構築に向けた関係者の合意形成が図られるよう支援します。

要望 大松 東総地域の医療連携の協議が、早期に一定の成果を挙げられるよう、県の強力なリーダーシップを要望する。

あさひ新産業パーク 現在7社立地

大松 あさひ新産業パークへの企業誘致について。現在までの分譲状況及び今後の分譲の見通しはどうか。商工労働部長 工業用地37・4畝のうち6・0畝が分譲または賃貸済みで、現在の立地企業数は7社です。数社から引き合いがあり、交渉を継続しています。

大松 今後の企業誘致への取組みと戦略を伺いたい。また、地元旭市とはどのように連携しているのか。商工労働部長 全県一律の補助要件を改め、半島振興地域、低開発地域工業開発地区など企業立地が進まない地域について、補助対象となる投資額や事業従事者数の要件緩和を検討しています。

3市1町の自治体病院へ

大松 東総地域の医療連携について。東総地域医療連携協議会では、具体的にどのようなことが検討されているのか、その現状はどうか。健康福祉部長 将来的に3市1町の自治体病院の経営統合を目指すことなどを内

容として取りまとめられ、提言を踏まえ、平成19年2月に市長さんや町長さん、議会代表者などを構成員とする「新たな東総地域医療連携協議会」が開催されました。昨年7月の同協議会で、具体的な進め方として、病

院同士の交流に歴史がある「旭中央病院」と「匠瑛市民病院」の連携を先行して取り組むことが合意されたところ。現在、この合意に基づき、両病院の規模や診療機能をはじめ、職員の処遇や勤務体制、財務状況の分析、今後の施設整備の必要性などについて、専門部会とワー

キンググループを設け、実務的な検討が進められています。大松 今後、県はどのような取り組みでいくつもりなのか。健康福祉部長 東総地域の限りの医療資源が効果的かつ効率的に機能するためには、県として、3市1町

の病院が、それぞれの役割と診療機能などを明確にし、病院相互の医療連携体制を構築していくことが重要である、と認識しています。このため、今年度も引き続き、東総地域医療連携協議会やその専門部会、ワーキンググループにおける検討の中に、県も積極的に参

加し、東総地域の医療連携体制の構築に向けた関係者の合意形成が図られるよう支援します。

旭市特集

市民の声を県政に生かすふるさと旭市のために

大松しげかず県議

6月県議会自民党代表質問
財源不足への懸念を表明
6月定例県議会で最大会派の自民党からは皆川輝夫議員(鎌ヶ谷市選出、四期目)が代表質問に登壇しました。皆川議員は、財政問題を第一に取り上げ、本年度は当初予算段階でも百四十五億円もの財源不足のうえ、原油価格の高騰や幅広い物価の値上がりで日本経済に暗い影を落としているなかで、今後予定した税収さえ確保できないのではないかと懸念から厳しい財政運営を質しました。また、羽田空港の国際化問題での知事の姿勢を厳しく質すとともに、成田新高速鉄道の開通に伴う北総鉄道との運賃格差問題や特急待ちによる利便性の低下などを指摘し、県当局の取り組みを求めました。